

月刊世相 一九八三年二月

ハネムーンか  
限定的和解か

中ソ関係を占おう

中嶋 嶺 雄  
東京外国語大学教授

寺谷 弘 壬  
青山学院大学教授

竹村 健 一

中・ソ大接近!!

竹村 中国とソ連が接近していることは皆さんご存知だと思いますが、それがどの程度で、日本にどのような影響があるのかを二人の専門家をお招きしてお話ししていただくと思います。まずは、『中ソ同盟の衝撃』という本を書かれた中嶋さん。それから『ソ連の読み方』という本を書かれた寺谷さんです。中嶋先生は今後中ソがものすごく仲よくなるという説で、世界的にみると少数派の考え方です。寺谷先生はそこまではいかないだろうという考え方で、これが普通の人の考え方です。さて中嶋先生、どうしてそのよう



●フジテレビ系昭和57年12月19日放映

に考えるのか。いくとしたらどこまでいくのか。

中嶋 つまり中国に毛沢東という大変個性的な政治家が出てきて、ソ連の指導者などとは席を同じゅうせずと頑張った。これが中ソの仲がここまで悪くなった最大の原因だと思っています。

竹村 毛沢東が死んだ後は仲よくなる方向へ進んでたんですか。中嶋 そうです。それが仲よくなる方向への一つのきっかけでした。しかしもし中国に毛沢東的な考え方が今でも支配的であれば中ソ和解はありえない。ところがその毛沢東がすっかり否定されました。そしていつか毛沢東政治とは何かといえますと、五〇年代の半ば頃からの急激な農業集団化であったり、あの文化大革命だったわけですから、こういうプロセスが全部否定されました。

今中国の指導者が考えていることは、単に文化大革命は中国にとって悲劇であったとか、毛沢東の政治は晩年特に独裁的で

あったということだけじゃない。更に前の五〇年代半ば以降の毛沢東政治を根本的に否定しているところとしている。おそらく今後鄧小平とか胡耀邦とかいう人は、

こういう政治をあと二年、五年かかってやり遂げようとする。そうしますとその間がすつぽりなくなつちやう。すると論理的にも五〇年代のところまで返っていくとみておいた方がいい。

竹村 鄧小平は親米派というよりは親ソ派であるとか何かで読んだ記憶があるんだけど……。

中嶋 今まではその辺がほとんど気付かれていませんでしたが、鄧小平だつて考えてみるとソ連に留学してるわけですから、その辺のところをおさえておいていいのでしょうか。

籍は抜けているか

竹村 一般に欧米の新聞、雑誌をみていると、だいたいはそのままではいかないだろうといっている。寺谷さんもそういう感じですね。

寺谷 そうですね。私は限定的和解と名付けているんですけど、やはり中ソは一旦はいがみ合つて離婚した国同士ですから、もとへ納まるのはなかなか難しいと思うんです。ソ連の方は何回

も和解しようという誘いを入れてるんですけどね。

竹村 国境紛争をこれだけ何度も繰り返して、ここもあそこもソ連に領土をとられ、その上中ソ国境線が未定のところがあつたりするのを見ると、中国が仲よくするのやろかと思いたいところですね。

寺谷 中国は返せとはいっていないのです。取つたということ認めてほしい。認めるだけいいと主張する。認めることソ連としては後で大きな問題になりますので認められない。

中嶋 国境問題というのは、お互いがけんかして始めて初めて隣の境がけんかの対象になるよくなたぐいの問題ですよ。ましてや中ソの対立は夫婦げんかです。考えてみるとこの夫婦、籍は抜けてないのです。別居してお互いののしり合つておられるけれど、籍は抜けてない。それは例えば社会主義の国の中でポーランド現象（連帯）が起これば一緒になつて押えたりする時に現われる。中国もソ連も戦略国家ですから、社会主義国同士で同じ目標を求めることが今後増えてくると思います。

竹村 じゃあ籍が抜けてないことに関してですが、一九五〇年

に結ばれた中ソの条約が、一九八〇年で自然に失効したでしょ。条約が有効だつた二〇年間は籍は抜けてないとみていい。ただし後半の一〇年間は仲が悪かつた。で、八〇年からはその条約もなくなつたんだからそれこそ籍は抜けたと解釈してもいいのじゃないか。

中嶋 ところがちやうど例の条約を中国が廃棄通告した時分からソ連に対する評価が変わつてくるんです。中国の政治の非毛沢東化に添う形でソ連評価にも変化がでてきている。第一毛沢東の政治を否定しているわけですから、毛沢東の対外政策だけがよいということはあり得ない。毛沢東の対外政策の核心はやっぱりソ連との対決ですからね。

寺谷 プレジネフ政権が成立してからソ連は三回ほど和解を申し込んだ。一番最初は、フルシチョフと毛沢東が徒に中ソ対立を大きくしたという個人責任説を出した。私達ソビエトはフルシチョフをくびにしたのでおたくは毛沢東をくびにしなさいと、一九六四年に周恩来がソ連に来た時にちらつと言つたと言われています。この時は中国はのつてくれなかつた。

その次は一九七二年にプレジ

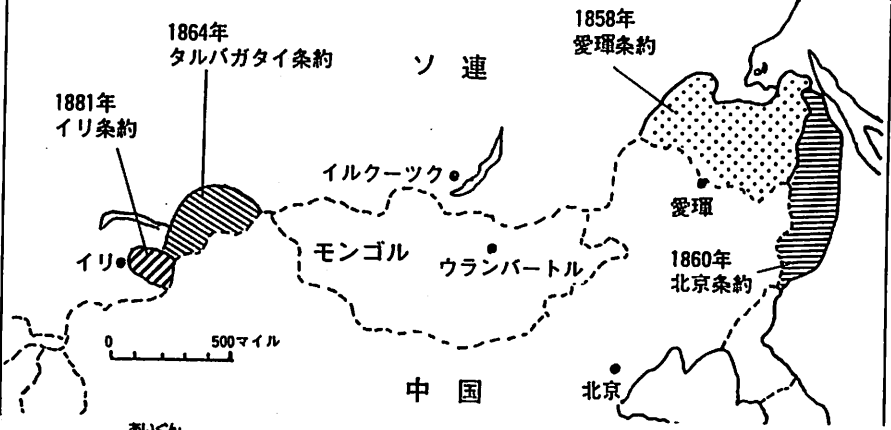
ネフが中国を社会主義国ではなく資本主義の国だとし、ソビエトの社会主義とやっけていくためには平和共存という形でやろうと提案した。

竹村 七二年というのは九月に日中国交が回復し、アメリカも中国と仲よくなつたという年でですね。その時にプレジネフは中国を共産主義やないというたんですか。

寺谷 資本主義と社会主義は階級闘争を続けながら平和共存していくという論理。日本と仲よくするのと同じような意味でいきましようと思つたわけなんです。ところが一九七六年の第二五回党大会では、やはりマルクス・レーニン主義の枠組みの中でやりましようとなつた。これは毛沢東の死後を予測した提案だつたわけです。

八二年の三月にはタシケントで、いまだかつて中国を社会主義の国ではないと思つたことはないし、今も思っていないと、プレジネフは言うんですよ。竹村 で、この時は中国は思えてるんですか。寺谷 三度目の第三案に中国はやつと応え始めたんですね。竹村 八〇年代に入つて中ソが近づき始めたことまでは衆目の

● 申の国境問題(各条約により割譲された地域)の読み方(参照)



- 1858年 愛琿条約 アムール河の左岸地区が帝政ロシアに割譲された。
- 1860年 北京条約 愛琿条約で共有領土とされたウスリー河、興凱湖以東の東部地区もロシア領に。
- 1864年 タルバガタイ(塔城)条約 外モンゴル西域に加えてカザフやフルート遊牧地がロシア領に編入。
- 1881年 イリ(伊犁)条約 イリ地区をロシア領に。

認める事実ですね。これから先もっと接近するかどうかに関し  
ては意見が分かれるんやね。  
寺谷 近付き始めたんですけど、  
アフガニスタン侵攻、ベトナム、  
カンボジアの事件でまたちよつ  
とさめたんですね。そして一九  
八一年ぐらゐからまた仲よくな

りそうな感じになり、八二年、  
ブレジネフ末期になって急激に  
接近する可能性が出てきたとい  
うことでしょうか。  
中嶋 ですから国境問題は我國  
の北方領土問題をみてもわかる  
ようにソ連は譲らないでしょう  
し、中国もいわば寸土といえど

も争うべしという国ですからお  
互いに妥協しないでしょう。し  
かし、関係がよくなればこの問  
題はそんなに重要な問題でなく  
なつて一時棚上げすることもで  
きる。  
ソ連兵がどこへ行く  
竹村 問題は中ソ国境にいるソ  
連兵の一部がヨーロッパの方へ  
まわされるか、あるいは日本向  
けにカムチャツカの方へまわさ  
れるかということ、そこまです  
やるかどうかで人の意見が分か  
れている。例えば日本の外務省  
などではそんな所までは来ない  
だろうという楽観説をとってい  
る。

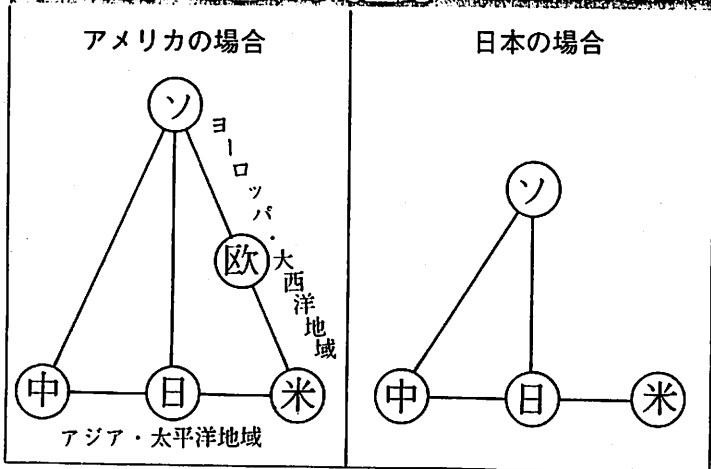
寺谷 五〇万兵しかないんで  
しよ。四〇万ぐらゐにすればい  
いので、一〇万兵ぐらゐが退く  
だけでしよ。  
竹村 一〇万退いても西歐では  
衝撃なのじゃないのかなあ。  
寺谷 でもソ連はモンゴルから  
は絶対退きませんよ。  
中嶋 モンゴルがソ連の一六番  
目の共相国といわれ、いかにモ  
スクワに忠誠を誓っている国で  
も、ゴビ砂漠にソ連兵がぞくぞ  
くと駐屯し、ソ連の戦車がたく  
さん結集しているのが最近の状  
況ですから、そこまでソ連が目

立つてくると、国民感情からし  
てもよくないですね。  
モンゴルには四、五個師団ぐ  
らい駐屯しているといわれます  
が、中国が退いてくれれば、  
渡りに船とばかりにソ連が退き  
あげる条件ができていものでは  
ないかと思うのです。  
一方中国の方は、辺境にいる  
人民解放軍てのが一種の生産建  
設兵団、つまり屯田兵みたいな  
ものですから、簡単に人民解  
放軍の兵力削減はできない。ま  
してや中国ではただでさえ人口  
が多く、働き口がなくて困って  
いる。ある意味では大量の人民  
解放軍てのは失業救済でもあつ  
たわけです。それだけにこの兵  
力がどこに展開するかが問題に  
なってくるのだと思います。  
竹村 中国はどこへ展開するん  
ですか。  
中嶋 まあ例えば南の中越国境  
に移すとか、アフガニスタンあ  
たりをにらむとか。  
竹村 そうなるとベトナムと中  
国の関係はよくなるわいな。ベ  
トナムはソ連に言うでしょうね、  
そんなの困るゆうて。  
中嶋 ですからそういう形で中  
ソが和解して各軍勢力が減らさ  
れるということになると、ユー  
ラシア大陸をめぐる軍事バラ

ラシア大陸をめぐる軍事バラ

●中ソ関係を占う

中ソ双方への国米の荷重比(中ソ同盟の審判・参照)



スが崩れますね。ただ中国の人民解放軍ではもともと大した戦力はないわけで、むしろソ連軍がどこへ行くかが心配される。寺谷 現在ソ連では、若者の人口がどんどん少なくなっており、今まで大学生は徴兵制を待って暮らしていたんですが、今年九月からはそれもはずされてしまったんです。それくらい軍人が少なくなっているのです、一〇万人減らすのは、そういう面もあるし、それに中国と同じに五〇

万の兵士の全部が軍人として働いているのではなく、中にはソベリア開発に従事したり、台風が来た地域に派遣されて復旧作業に就いたりしている。竹村 災害対策にたずさわるのは日本の自衛隊だけでなく……寺谷 ええ、世界的なものです。ですから一〇万減らすといつてもそれほどインパクトはないのじゃないかと感じます。

力をかけてくればかなりなものになる。その上アメリカが貿易摩擦やなんやと圧力をかけてきたら、日本は三方から責められ、辛い立場になる。中嶋さんの面白いところは、あの教科書問題が起きた当初に中国の政策が変わりつつあると話していたことですね。あの時期中国が批判し出したのは、そのタイミングをみはからついていたんだと。中国の日本に対する政策が変わってきたことの現われだと。事実そんな感じになつてきた。

寺谷 特に昨年なんかは往復で一億七〇〇〇ルーブルでした。今年の推計で四五%の伸びになるだろうということです。ハネムーンの時期になるまでは大変だろうと思いますね。中嶋 だけど一時の約一〇倍になってますし、中国の軽工業とか繊維製品のマーケットをみると、シンガポール、韓国、台湾、香港など東南アジアの諸国と競合しちゃうでしょ。今後、国境で取り引きができるなんてことになりそうです、ソ連以下社会主義国はかなりの市場ですね。竹村 一月にはポリシヨイバレー団が中国を訪れるとか、観光推進の会が開かれるとか……。寺谷 留学生の交換も行なわれ、中国ではすでに留学生の募集もやっているんですね。それからこれから国境貿易(ボーダー・トレード)が……。

中嶋 お互いに中ソ対立ということからすれば非常に象徴的な兵力引き離しになるから、それを機会にかなりのはずみがついて一体感を取り戻すのではないかと。それで例えば日本軍国主義復活と一緒になつて批判するということになるかもしれない。竹村 それが問題ですね。ソ連と中国と一緒になつて日本に圧

中嶋 ええ。政治というのは一つのはずみでしょ。お互いに今まであまりにも不当に不毛な対立を続けていただけに、今度よくなるのかなりいくのではと感じる。竹村 はずみというのと、例えば中ソ貿易額は関係が悪かった頃にぐーんと下がってしまった。それが今度は昔並みに上がると思いますか。中嶋 僕はいくと思うんですよ。竹村 第一あの頃に比べるとインフレだから、貿易量が当時と同じだったら数字は五倍から一〇倍いきますよ。だから逆に今は量的にはものすごく少ないと思うんだよね。

竹村 特に中国の東北部、いわゆる旧満州あたりにそれが多くでしょう。寺谷 仲がいい時は六ヶ所でやっていたんです。ところが関係が悪化した後は一ヶ所で細々と続いていた程度になつた。で、今年からまた元に戻して六ヶ所で行なわれるようになった。ナホトカとかハバロフスクには中

国の缶詰めやシャツなどがずいぶん入っています。

中嶋 デすから国境地帯は、モシゴルあたりが仲介して中ソ友好国境地帯を作ろうという話まで出ている。ですから将来的には中国の労働力がシベリア開発にいくことだつてあり得ると思いますね。

寺谷 しかしそれはソ連にとつて恐怖ですね。例えばソビエトのジョークにこういうのがあつた。つまり、中ソの戦争をやつて最初中国の三万の軍隊が投降してきた。そこでシベリア鉄道に従事させたらよく働くのでよかつた。ところがその次に投降してきたのが三億だ。二億六八〇〇万のソ連よりもたくさんの方が投降してきたので今度はソ連の方が手を上げて負けたと言つたと。いくら仲よくなくてもどんどん入つてこられるとこれは恐怖ですね。

寺谷 さてこの中ソの接近が今後日本にどのような影響をもたらすでしょうか。

### 正念場をむかえる日本外交

竹村 さてこの中ソの接近が今後日本にどのような影響をもたらすでしょうか。

ちなみに、一月に永野日商會頭を團長とする訪ソ使節団が今までにない一五〇人の限度いっぱい最大のメンバーで行くゆ

うことです。日本が七〇年代の一〇年間中国一辺倒でちよつと片寄りすぎたから、今度のアンドロポフ新政権成立をきっかけに動こうとしている。

中嶋 日本の財界の人つていうのがある意味ではいかに時流にのりやすいかがわかります。中国の時だつて我も我もと中国市場開発に力を入れた。日中長期貿易とり決めが決められたのがわずか四年前です。そのパ

ラ色のイメージが崩れたと思うと今度はソ連でしょ。これではソ連にも相手にされないと思ひます。だから鈴木首相がこの前中国に行った時、実力者の鄧小平氏や胡耀邦氏はあまり時間をとつて会いもしなかつた。もつ

ばら趙紫陽氏にまかせた。ブレジネフ氏が亡くなった時に当時の外相だった桜内さんと総理の鈴木さんが二人つれだつてわざわざモスクワまで行つたけれど実に冷たくあしらわれましたよね。

寺谷 そうですね。日本のブライオリティは低いのですね。面白いことにソ連に行く代表

團は中国貿易をやるうとしてスカを食つた人達が行くんですね。中国はダメだから今度はソ連だということ。またソ連で

スカ食つたら中国へと。これが日本の外交ですよ。日本の外交というのは非常に残念ながら一つに決めてしまつて固執する傾向がある。

竹村 ただアメリカだけは離さないでいつてみるみたいですね。中嶋 実はアメリカの学者もワシントンの政策決定者もこれまでは中ソ対立を前提として政策を立ててきてるわけです。それだけに、もし今後安全保障とか防衛政策で中ソに深刻な脅威を感ずることになると、日本に対しても非常に厳しい姿勢で出てくるのじゃないか。

竹村 それと同時に、日本は東アジア唯一の大国だから、余計大事にしてくれるという風にならんかなあ。あんまり貿易でいじめられなくなるとか。

寺谷 両方からプロポーズされることもあり得るでしょうね。だから日本はかつての等距離外交を中ソにもう一度展開することが可能です。

竹村 一九五一年のサンフランシスコ講和条約でアメリカとの単独講和に踏み切つたおかげで、つまりアメリカが早く日本をアメリカ側にとり込みたかつたから、日本は軍備もせんでええ、アメリカが全部守るとゆうよう

な安保条約ができた。だから今度も中国がソ連側と一緒になつたら、それをきっかけにアメリカに日本を大事にしなさいよ、貿易やなにやとあんまりいじめたらうちもあつちに行つちやうよ、とこう言ええええ。

中嶋 それには日本の方がアメリカより中ソに対して直接接するわけです。だから日本はしっかりしていなければいけない。今までのように中国だ、ソ連だという形で主体性がなく、揺れ動くのではなく、日本がしっかりしていればアメリカもそれに尊重するようになると思ひます。

寺谷 そうですね。そして日米関係をもつと緊密にしなければ両方の手が伸びないですね。中嶋 そうゆう点では今後厳しくなると思ひますよ。当面アメリカは日本に防衛力増強を要請するでしょう。それに日本が応えようとするれば今度は中国から軍国主義と批判される。ひよつとするとソ連も一緒になつて日本をたたくということにもなりかねないですよ。

竹村 このように考えてくると八〇年代の日本の生き方も当然変わつていかななくてはいけないですね。

寺谷 そうですね。そして日米関係をもつと緊密にしなければ両方の手が伸びないですね。中嶋 そうゆう点では今後厳しくなると思ひますよ。当面アメリカは日本に防衛力増強を要請するでしょう。それに日本が応えようとするれば今度は中国から軍国主義と批判される。ひよつとするとソ連も一緒になつて日本をたたくということにもなりかねないですよ。

竹村 このように考えてくると八〇年代の日本の生き方も当然変わつていかななくてはいけないですね。

寺谷 そうですね。そして日米関係をもつと緊密にしなければ両方の手が伸びないですね。中嶋 そうゆう点では今後厳しくなると思ひますよ。当面アメリカは日本に防衛力増強を要請するでしょう。それに日本が応えようとするれば今度は中国から軍国主義と批判される。ひよつとするとソ連も一緒になつて日本をたたくということにもなりかねないですよ。

竹村 このように考えてくると八〇年代の日本の生き方も当然変わつていかななくてはいけないですね。